



# ピースボート福島子どもプロジェクト2014・春 ～異文化を体験するアジア国際交流の旅～ 活動の記録

国際交流NGOピースボート  
一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

2014年5月

## 目次

1. 目的と概要	2
2. 参加者	3
3. 旅程	4
4. 現地受け入れパートナー	4
5. 旅の様子と子どもたちの声	5
6. メディアでの報道	8
7. 主な成果	8
8. パートナーからのメッセージ	10

## <問い合わせ・連絡先> (担当：市塚、塚越)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

ピースボート TEL. 03-3363-7561

ピースボート災害ボランティアセンター TEL. 03-3363-7967

## <参考リンク>

ピースボート福島子どもプロジェクト [http://www.peaceboat.org/projects/fukushima\\_youth/](http://www.peaceboat.org/projects/fukushima_youth/)

PBVふくしま支援ブログ [http://pbv.or.jp/blog\\_fukushima/](http://pbv.or.jp/blog_fukushima/)

# 1. 目的と概要

## ■趣旨と背景

東日本大震災と原発災害は、福島の人々の日常に大きな影響を与えました。「放射能への不安から、屋外で十分に遊べない」「仮設校舎や仮設住宅の生活で、集中して勉強ができない」など、事故から3年以上が経過した今も、とりわけ子どもたちを取り巻く環境は厳しいままです。

ピースボートが震災後に立ち上げた「福島子どもプロジェクト」では、被災した福島の子どもたちに“夢と健康”を届ける活動をしています。学校の長期休暇を利用した船旅やスタディツアーへの参加を通じて、子どもたちがのびのびと感じられる環境の下で、国際交流や自然体験、異文化体験の機会を提供しています。これらのプログラムを通じて、心身の健康をサポートすると共に、子どもたちが将来の夢に向けて視野を広げることを支援しています。

プロジェクトは国際交流NGOピースボートと一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）が共同で実施しており、これまでに「夏休みアジアクルーズ」（2011年7～8月）、「夏休み福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」（2012年7～8月）、「2013春 in オーストラリア」（2013年3月）を行いました。

## プロジェクト呼びかけ人

加藤登紀子（歌手）／鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）

香山リカ（精神科医）／田中優（環境活動家）／田部井淳子（登山家）

## ■2014・春「異文化を体験するアジア国際交流の旅」

2014年春休みのプロジェクトは、第83回ピースボート「地球一周の船旅」に春休みの期間、部分的に乗船すると共に、その前後にシンガポールとスリランカで現地プログラムを実施しました。アジア地域の文化に触れ、多様性を肌で感じると共に、生活環境や言語の違いを乗り越える術を考えるきっかけを提供するプログラムを実施しました。

プログラムの基本コンセプトは、以下のようなものです。

- **多文化を感じる**  
多民族シティ・シンガポール散策／スリランカの寺院で文化体験
- **コミュニケーション能力を磨く**  
アートを使ったワークショップ／洋上英会話レッスン
- **災害と復興を学ぶ**  
福島の経験を世界と共有する／スマトラ沖地震と津波からの復興を知る
- **思いっきり外で遊ぶ**  
360度の大海原を航海する／洋上スポーツ大会

## ■日程概要（準備から事後報告まで）

【参加者・保護者説明会】2014年3月2日(日) 於 南相馬市鹿島区役所

【事前研修】 3月16日(日) 於 同上

【プログラム実施】 3月21日(金)～3月31日(月)

【事後報告会】 参加生徒が通う各中学校にて2014年4～5月にそれぞれ実施

## ■福島現地パートナー

今回のプロジェクトは、2011年の「夏休みアジアクルーズ」、2013年の「2013春 in オーストラリア」に引き続き、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップによって実施されました。同会が、ピースボートとの綿密な協議の下、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣をしました。

### ○特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

放射能の影響により戸外での活動制限が続いた子ども達を心身ともに解放したいという願いから、2011年6月に南相馬市に発足。市内小中学校PTA連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子ども達を保養プログラムに送り出す活動を続けている。

<http://www.kodomonotsubasa.com/>

## 2. 参加者

---

### 【参加生徒】

福島県南相馬市の中学生12名  
(2014年度からの新一年生を含む)

石橋尚美 (原町第一中学校)  
菅野菜緒 (原町第一中学校)  
後藤明音 (原町第一中学校)  
紺野雄太郎 (原町第一中学校)  
古内綾乃 (原町第二中学校)  
熊耳遥 (原町第三中学校)  
佐々木千尋 (原町第三中学校)  
井戸川陽香 (小高中学校)  
志賀匠真 (石神中学校)  
前田夏翔 (鹿島中学校)  
内田淑人 (鹿島中学校)  
木幡拓也 (鹿島中学校)

### 【引率】

内田雅人 (南相馬こどものつばさ)

### 【同行スタッフ(ピースボート)】

ドワイヤーはづき (プログラム進行役)  
片岡和志 (写真、記録)

### 3. 旅程

---

#### 【旅程】

日付	主な活動場所	主な活動内容
3/21(金)	移動	南相馬出発 成田空港より空路シンガポールへ
3/22(土)	シンガポール	到着 アート・ワークショップ
3/23(日)	シンガポール	アート・ワークショップ、観光 ピースボート(オーシャンドリーム号)に合流
3/24(月)	船内	「福島キッズパートナー」と対面 英会話
3/25(火)	船内	スポーツ大会、フルーツパーティー 宇井孝司さん講座
3/26(水)	船内	操舵室ツアー 田部井淳子さん講座、ドリームマッチング
3/27(木)	船内	広島・長崎の語り部のお話を聞く お別れイベント
3/28(金)	コロンボ	コロンボで下船、象のエコツアーに参加 船の見送り
3/29(土)	コロンボ	JICA研究所で、隊員の方と交流 観光
3/30(日)	コロンボ	地元NGOセワランカと交流 世界遺産ゴール旧市街観光
3/31(月)	移動	成田空港到着 バスにて南相馬へ帰着

※第83回ピースボート「地球一周の船旅」(2014.03.13~06.24/横浜発着104日間)の旅程については、以下を参照  
<http://www.peaceboat.org/voyages/83rd>

### 4. 現地受け入れパートナー

---

#### ■シンガポール

- ・ Anjeli Narandran (アンジェリ・ナランドラン) さん  
ピースボート・ボランティア
- ・ Sunkyoung Lee (イ・サンキョン) さん  
アジア・ヨーロッパ財団 (ASEF) 職員
- ・ Terence Tan (テレンス・タン) さん  
演劇、アートなどを使っている若い社会活動家。「アートソリュート (ArtSolute)」という団体を運営。一緒にワークショップを進行する同僚や10代後半~20代前半のボランティア6~8名を集めて、現地でのアート・プログラムを実施してくれた。

## ■コロンボ(スリランカ)

・但木雄大さん

国際協力機構（JICA）隊員、コロンボ駐在。水による腎臓病の調査を行っている。ピースボートの過去ボランティアでもある。

・Ashanti Edrisinghe（アシャンティ・エドリシング）さん

現地NGO「セワランカ（Sewalanka）」の中心的スタッフ。セワランカはスリランカの中でも最大規模のNGOの一つで、地方の女性の自立支援活動などを行っている。ピースボートは2004年のスマトラ沖地震以後、定期的に交流を行っている。

## 5. 旅の様子と子どもたちの声

### 【 出 発 】

3月21日(金)

朝、南相馬・鹿島の「さくらホール」に集合。南相馬こどものつばさ代表の西道典さんとの出発式。バスで成田空港へ出発、16時に成田空港着。同行スタッフと合流。旅の抱負を語り、20時50分、シンガポール航空 SQ11 便にて、シンガポールへ。



感想

「日本出発する前の私は、いくつかの不安まじりの疑問がありました。どんなことをするのだろう、自分が今まで勉強して身に付いた英語は使えるのか、など心の中で思っていましたが一つちゃんと決まっていました。それは、全力で楽しむ！！」

### 【 シンガポール 】

3月22日(土)

シンガポール・チャンギ国際空港に到着。バスで市内 Plot Hostel へ向かい、就寝。

昼前に、現地パートナーと合流し、オリエンテーション開始。昼食後、ワークショップ会場 My Art Space へ移動。アートを使い、自分の想いを表現するワークショップでは、ゴミなどの廃材を使って、人形を作成。その想いを発表する。参加者の古内彩乃さんは「津波で被害にあって悲しい女の子」を作成（写真）。

その後、パートナーの子どもたちと一緒に中華街で観光や買い物を行う。チャイナタウンではお土産を物色。



感想

「シンガポールに着いて、現地の人とパートナーを組みましたが、英語がわからなくてとても困りました。一生懸命聞いてくれても何て言っているのかわかりませんでした。身振り手振りや簡単な英語で伝えてくれました。こっちもなんとか伝えようと思いました。伝わったときのうれしさは今でも覚えています」

### 3月23日(日)

前日から引き続き人形作りのワークショップを行う。作ることから、さらにストーリーを広げてそれを発表。現地のパートナーと一緒にワークショップに参加。ワークショップを終えて、マーライオンを観光、ピースボート（オーシャンドリーム号）へ合流。チェックイン。2日間一緒に過ごした、シンガポールの若者たちとお別れ。船内では避難訓練。



### 【 ピースボート洋上 】

#### 3月24日(月)

船内で集まった「福島キッズパートナー」のお兄さん、お姉さんと顔合わせ。洋上英語プログラムのゲームを通じた英会話の授業を受ける。スポーツデッキでサッカーやバスケットボールをし、プールに入る。



「初海外で船に乗れてうれしかったで

感想

「外にでて一面に広がる海、空を見ると、外国にいるという、実感がすごくわいてきました。改めて外国にいるということを考えるとうれしくてたまりませんでした」

#### 3月25日(火)

洋上スポーツ大会を開催。大人と一緒にチームに分かれてサッカー。その後はシンガポールで仕入れたふんだんな果物を使ったフルーツパーティー。午後は、英会話レッスンと水先案内人（ピースボート船内講師）アニメーション映画監督、宇井孝司さんによる講座を受ける。



感想

「ピースボートでは、毎日英語のレッスンがあり、文法などは全くやらず、まさに生きた英語のレッスンでとても楽しかったです。また広島の被爆者の方のお話を聞く機会があり、実際に話を聞いて原爆は想像以上に恐ろしく、原爆でついた心の傷は一生治らないんだなぁと思いました。そして、二度とこの悲惨な出来事を繰り返さないために僕たちはそのことをこれからも忘れずに、みんな伝えていかなければいけないと思いました」

### 3月26日(水)

船の操舵室ツアーに参加。水先案内人で、登山家の田部井淳子さん（福島県出身。本プロジェクト呼びかけ人）による講座を受ける。「どうして登山家になったのですか」。女性で初めて、世界最高峰エベレスト登頂を成功させた彼女の山を登る理由を探る。その後、寄港が間近に迫るスリランカの基礎知識を説明会で学ぶ。午後は「福島キッズパートナー」が企画した、「ドリームマッチング」。船内にいる様々な職種の乗客40名が集まり、子どもたちにお仕事紹介。締めくくりはインドネシアンナイト。インドネシアからの乗組員たちが伝統の踊りを披露する。

感想

「登山家の田部井さんやアニメーション監督の宇井さんの話を聞く機会もあり、人生や考え方なども学ぶことができました。ドリームマッチングでは、いろいろな職業の人から話を直接聞くことができ、たくさんの分野に興味を持つことができました」

### 3月27日(木)

翌日に到着するスリランカについて内戦の歴史を勉強。その後、ピースボートの「おりづるプロジェクト」として証言活動のために船に乗っている、広島・長崎の原爆の語り部たちのお話を聞く。水先案内人であるスリランカの人権活動家、マリオ・ゴメスさんによる講座を受ける。マリオさんの率直な震災や原発事故についての質問に対して、子どもたちは自分の状況を語る。

最後は、お別れイベント。ずっと一緒に居てくれたお兄さんお姉さんや乗客の方とゲームをしたり歌をうたったり。最後の挨拶では涙でうまく話せなくなってしまう場面も。



「原爆でひばくした話を聞いてひばくはあぶないんだなと思いみんなに広めようと思いました。（スリランカの内戦の話をした）マリオさんの話を聞いて差別はよくないんだなともものすごく強く感じました」

感想

「船を降りる日、私たちは船の外で『ありがとうございました!』とさげびました。船の上で、『We Love 福島キッズ!』という大きな紙を持っていて、それを大きな声で叫んでくれました。私たちの名前を呼んでくれて、感動して号泣してしまいました」

### 【 コロンボ(スリランカ) 】

#### 3月28日(金)

船はコロンボに入港。「スリランカで考える象との共存&エコとリサイクル」のツアーに参加。スリランカでは内戦で親を亡くした象や開発によって傷ついた象が多くいる。そのような象を保護し、象の孤児院として運営している施設を訪問。



また、象の糞を使った紙を作り販売している。糞から紙を作る過程を見学、紙すき体験を行う。帰船後、船をチェックアウトし出港する船を見送る。市内 Grand Oriental Hotel Colombo へ移動。

感想 「一番感動したのがスリランカについてコロンボツアーで、象のうんちから紙をつくっていたことでした」

### 3月29日(土)

午前、国家上下水道局中央研究所 (National Water Supply and Drainage Board, Central Laboratorie) で国際協力機構 (JICA) 隊員但木雄大さんからスリランカの水事情、下水システム、水質汚染などについての講座を受ける。お昼はスリランカの伝統料理を食べながら他の JICA 隊員3名も合流し交流。午後はガンガラマ寺院へ行き観光、スーパーマーケットで買い物。



### 3月30日(日)

早朝に現地受け入れパートナー、セワランカのアシャンティさんと合流し、バスで2004年の津波被害を受けたスリランカ南部ゴール地域へ。交流場所 (Kathaluwa land) では12名のコロンボの子どもと津波被災者の青年2名も参加。津波に関する証言、伝統的なマスク作り、日本の折り紙などを紹介。スリランカ伝統料理の昼食を食べ、キャンプファイヤー。帰りに、世界遺産「ゴール旧市街」を観光。深夜にホテルをチェックアウトし、コロンボ空港へ。



感想 「(スリランカで) 一番驚いたのは日本との気候と食文化の違いです。赤道付近のスリランカは、とても暑く、日本とは全く違う気候でした。また、食文化はほぼ毎食がカレーで、…スプーンやフォークを使わず、手で食べていて、実際にやってみると難しく、うまく食べられませんでした」

### 3月31日(月)

午前1:30発のシンガポール航空 SQ496 便にのり、シンガポールで SQ12 便に乗り換え、成田空港に17時に到着。お別れの挨拶のあと、バスに乗り込み南相馬へ。24時に南相馬「さくらホール」へ到着。南相馬こどものつばさ西代表による終了式を行い、各自自宅へ。



感想 「今回の旅で異文化だけでなく国境、年を越えた交流、将来のことなど、いろんなことを考え、学ぶことができました。私はこれらから外国のひとなどいろんな方と交流できる職につきたいと思いました。またシンガポール、スリランカだけでなく、いろんな国の文化をもっと知りたいです」



## 6. メディアでの報道

---

■南相馬ひばりエフェム（市内 87.0MHz）で本プロジェクトの様子が報道されました。

<http://www.simulradio.jp>

3月25日、27日、31日、4月6日

■ラジオ福島「ふくしまスマイルキャラバン」で取り上げられました。

3月25日

■4月3日に参加者らが南相馬市の桜井勝延市長を訪ね活動報告をしました。その様子が以下の通り報道されました。

福島民友（4月5日付）「異文化交流 活動を報告」

福島民報（4月7日付）「市長に見聞の成果報告」

## 7. 主な成果

---

子どもたちは、国際交流や異文化体験を通じて以下のことを学ぶことができました。

### ■多文化、異文化の体験

シンガポールは中華系、マレー系、インド系、タミル系など様々な民族からなる国。4つの言語が公用語とされ、同じ国に、たくさんの民族と言葉があふれています。現地パートナーと一緒にコミュニケーションワークショップを行い、話して、笑って、食べて、感じて、異文化間交流を体験しました。また、スリランカでは日本とは違う食文化や、生活環境に身を置くことにより、日本とは異なる視点や考え方を知りました。

### ■コミュニケーション

コミュニケーションには何が必要なことは、相手を知りたいという気持ちです。最初は、英語に苦手意識があり、躊躇していた子どもたちですが、いったん、片言でも通じると分かれば、知っている単語を使い、どんどん話しかけるようになりました。通訳を介して、疑問に思ったことを積極的に聞くこともできるようになりました。恥ずかしがらずにコミュニケーションをとれるようになり、自分の意見を伝える力が強くなりました。

### ■さまざまな仕事への関心

訪れた国々や船内で多様な職種の人と知り合い、さまざまな仕事の現場に触れることができました。子どもたちは幅広い分野に興味、関心を持つようになりました。世界は広く、将来の可能性は無限であるという自信につながっていくことを期待しています。本プロジェクトが持つキャリア教育としての側面といえます。

## 8. パートナーからのメッセージ

---

ピースボートの皆様におかれましては、大震災直後原発事故により当たり前の生活が送れなくなった、南相馬の子どもたちのために何かできることはと、いち早く行動していただきました。衷心より感謝申し上げます。

保養活動を含めた新しい自分を見つけられる旅、出会い・絆・将来に希望のもてるプログラムを提供していただき、三回目の旅になります。

過去二回もそうですが、事前研修から始まりいろいろな方とのコミュニケーションを通じて、思っていることがはっきり言えなかった子が、言えるようになるなど、子どもたちの変化の様子が見られます。現在の南相馬市は、生活する上で何とか注意さえすれば安全に過ごせるまで改善されました。

しかしご存じの通り、某アニメ雑誌で福島は住んではならない所との発言もなされ、（実際観光地のホテルではキャンセルがあったそうです）大人も子どもたちも困惑しているところではありますが、私たちはこの地で生きている子どもたちに、安心・安全を提供しなければなりません。

正しい情報を知ってもらい、風評被害に負けない福島の将来を背負ってくれる子どもたちに育ってもらおうよう、「南相馬こどものつばさ」事業を進めてまいります。

今後ともご尽力よろしくお願いいたします

南相馬こどものつばさ  
理事長 西道典

「福島子どもプロジェクト」立ち上げの2011年夏に続きこの春の企画にも引率として参加させていただきました。今回は「異文化を体験するアジア国際交流の旅」というプログラムでシンガポールとスリランカに11日間滞在しました。現地や船内でのコミュニケーションプログラムはもちろんの事、多種多様なキャリア教育を受けるなど、盛りだくさんのプログラムを催していただきました。

中学生という最も多感な時期に得た海外での貴重な経験は、彼ら彼女たちにとって必ずや「人生の糧」となっていく事でしょう!!

この素晴らしい企画を更なる若い世代にも継続していただける様お願い申し上げます。私ども現地のスタッフとしましても最大限の協力をしてまいりたいと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。

南相馬こどものつばさ  
内田 雅人

## ご支援に感謝します。

---

今回のプログラムは、**ソウルフラワー震災基金**をはじめ、たくさんの方々の温かい寄付で実現することができました。引き続きピースボート福島子どもプロジェクトの継続と発展のために、支援金を求めています。

郵便振替	郵便振替 <b>00120-9-488841</b> (下6桁は右ツメ) 加入者名 社)ピースボート災害ボランティアセンター ※通信欄に「フクシマ」とご記入ください
銀行振込	ゆうちょ銀行 ゼロイチキョウ店(019店) 当座 <b>0488841</b> 口座名 社)ピースボート災害ボランティアセンター ※振込依頼人の前に「フクシマ」とお書きください ⇒ 例)「フクシマ ヤマダタロウ」
クレジットカード	<a href="http://pbv.or.jp/donate/fukushima.html">http://pbv.or.jp/donate/fukushima.html</a> をご覧ください。

## 終わりに

---

おかげさまで、2014年春期の福島子どもプロジェクトを無事終えることができました。ご支援、ご協力いただいた皆さまに改めて感謝を申し上げます。

震災から3年以上が経ちました。私たちも微力ながら支援をさせていただく中で、福島の被災者の皆さまを取り巻く状況が徐々に変わりつつあると感じます。震災直後は、緊急避難、あるいは緊急支援としての保養活動がたくさん取り組まれました。ピースボートの福島子どもプロジェクトも、そのような取り組みの一つとして始まりました。

しかし、子どもたちとともに国際交流の旅を進めていく中で、このプロジェクトには、子どもたちの将来の可能性を引き出す教育の場としての重要な役割があるということを実感するようになりました。

国境をこえることで、福島のこと、災害のこと、日本のことが、中にいるときには持てなかった新しい視点で見えてきます。自分とは異なる言葉や文化を持つ人が、これまで見たこともなかった土地で、いろいろなことにチャレンジしている。そのような出会いの中から、「もしかしたら自分にもこんなことができるかもしれない」というインスピレーションや自信が生まれます。そのことが、子ども一人ひとりが自らで可能性を生み出し、選択し、道を開いていくことにつながるのなら、それは私たちにとっての喜びです。

不条理な原発災害によって難しい立場に置かれてきた子どもたちに、一人でも多く、そのような機会を届けられればと願っています。

私たちのプロジェクトに、引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国際交流NGOピースボート  
一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

ピースボート福島子どもプロジェクト2014・春  
活動の記録



発行：  
国際交流NGOピースボート  
一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

写真：  
片岡和志  
写真：片岡和志